

授業改善等に関する報告書（2023年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2023 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Academic English	柳田 亮吾	この授業は、2年次のParagraph Writingの延長線上にあり、4年次の卒論のための準備という位置づけで行っています。授業は教科書で学んだ学術的なトピックに関して英語で論理的な意見を書くことを目標としました。英作にあたっては、翻訳アプリ・ソフトを使って終わりにならないように、日本語で意見を論理的に書きつつ、英語に訳しやす形に直し、その上で自身で英訳し、最後にDeep Lを使って英訳を修正するという形を取りました。また、学期末のTOEFL受験を見据えて、自身の作成した英作を覚えることでVocabularyや英語構文の定着を図りました。 授業中に行う作業や課題が多いことに対して不満もあり、私としても来年度に向けて課題が残るところではありますが、一方で作業や課題は学術的な英語力をつけるために必要な学修であることも理解頂きたいと思います。
Academic English	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。いただきましたコメントをふまえて、改善していきたいと思います。充実した最後の一年となりますことを願っております。
Academic English	諏訪 友亮	まずまずの評価でした。フィードバックをできるだけ早く返したいと思います。
Academic English	島 高行	来年度の卒論執筆にこの授業を活かしてください。
Basic Grammar b	土屋 結城	英語の基礎力の向上を中心に全体的なスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.70~4.81の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。 今後の課題としては、英語力のさらなる向上をうながすための取り組み（授業時のアクティビティや事前事後学修内容の充実など）や配布資料等の工夫が挙げられる。
Basic Grammar b	柳田 亮吾	この授業は教科書をもとに、基本的な文法を確認しつつ、学んだ文法知識をもとに文を作れることを目標としました。できれば、後者の文法知識をもとに文をつくる点に重きを置きたかったのですが、受講者の間で文法知識量にばらつきがあり、授業の進め方に苦心しました。授業ではどうしても文法の解説が多くなってしまい、受講生が主体的に取り組む（ペア）ワークの時間を取れなかったのが課題と感じています。来年度は反転授業を取り入れるなどして、授業中に受講生がより主体的に取める時間をより多くとりたいたいと思います。
Basic Reading b	島 高行	これからも気になる作品があればどんどん読んでいき、英語力をつけていきましょう。
Basic Reading b	志渡岡 理恵	1年生の必修のリーディングの授業で、最後の回に筆記試験を行ったこともあり授業アンケートの告知を失念してしまいましたが、30名中5名が回答してくれていた。来年度は忘れずに授業中に実施しようと思う。そのような状況ではあったものの、資料の分かりやすさや聞き取りやすさは共に5.0で、「英語の文章の理解がしやすくなった」、「問題を解いている中で、英文の組み立てについて深く考える力が身についた」というコメントが寄せられたのは良かった。
Intensive Reading b	塩田 航希	次の項目を通じて授業アンケート結果に対するフィードバックをします。 1. 検証および今後の改善方策の計画 まずは全体平均を下回る項目のみ抽出します。 Q1: あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか? Q6: 各回の授業の進むスピードは適切でしたか? Q14: あなたがこの授業で自分に成績をつけるとしたら、成績評価は何ですか? Q1は欠席回数を減らすために出席することで発言回数1回の加算を得るなどを検討します。Q6は次のコメントから授業進度が早いと捉えて作成資料に触れる時間を設けるようにします。(以下抜粋: せっかく作ったグループ資料をもう少し授業で触れ、活用してほしい。復習と予習はとても良かったです!) Q14は全体平均を下回るが+A, Aを選択している方が18名で履修者の約56%で問題ないと考えます。 2. 授業内で実施した工夫・取り組み 個別面談を初めて実施して学習意欲や自己肯定感を高める声掛けを意識しましたが次のようなコメントからも効果があったようで大変嬉しいです。 (以下抜粋: 塩田先生の授業は、他の授業と違って学生の参加意欲を高める工夫が沢山されていると感じました。その中でも、褒めてくださる機会が多かった点がとてもよかったです。私は、今後、この授業で学んだことを一つでも多くアウトプットしていきたいと考えております。) 3. 学生の要望に対する対応 次のコメントに対して他者比較ではなく過去の自分と比べることや苦手なことに時には向き合う必要があることを改めて分かってもらえるように声を掛け続けたいと思います。(以下抜粋: 説明も分かりやすかったし、ためになる授業で英語の勉強をもっと頑張ろうと思うことができました。ただ、授業で多く発言することで主体性などの社会人に必要となる知識を伸ばすことはできるかもしれないけれど、常に他の子たちと競争し、その結果を見て比べられているようで毎回の授業ですごく不安やプレッシャーがあったし、自分の引け目を感じる授業でもありました。発言すること自体が苦手な学生もいることをわかって欲しいです。)

[2023 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing b	金田 迪子	アンケートへのご回答を誠にありがとうございました。 今期の授業では多くの受講者の方が積極的に授業に参加していただき、高い目標である複数パラグラフからなるエッセイの完成を多くの方が達成することができました。毎回の課題毎に、受講者のみなさんが積極的に自分自身の課題に取り組んでいることが窺え、講師としてとてもありがたく感じていました。 アンケートでは特に8. 双方向授業に関する工夫について、平均を上回る評価をいただいたことを嬉しく思います。双方向授業に関しては、特に本授業のような演習形式の授業の場合、学生が提出物に関して講師から適切なフィードバックを得られることが、新しい技能の習得においては重要だと考えています。まだ発展途上の授業ではありますが、いただいた回答を励みに授業運営をさらに改善して参ります。また、次期授業からはmanabaや個別指導コレクション等のICT活用についてもさらに注力し、情報リテラシーと英語の学びがシームレスに繋がるような授業形態を目指していきたいと思っております。他の多くの項目についても平均を上回る評価をたくさんいただき、本当にありがとうございました。 半年間、ご一緒いただきありがとうございました。お疲れさまでした。
Paragraph Writing b	塩田 航希	次の項目を通じて授業アンケート結果に対するフィードバックをします。 1. 検証および今後の改善方策の計画 まずは全体平均を下回る項目のみ抽出します。 Q1: あなたのこの授業の欠席回数ほどのくらいでしたか? Q14: あなたがこの授業で自分に成績をつけるとしたら、成績評価は何ですか? Q1は欠席回数を減らすために出席することで発言回数1回の加算を得るなどを検討します。Q14は全体平均を下回るが+A, Aを選択している方が12名で履修者の約40%ということで一般的に妥当であると考えられます。 2. 授業内で実施した工夫・取り組み 発言制度をより良くするために予習の確認を今回初めて実施しましたが一定の好感触を得ています。次のようなコメントを多く受け取っております。(以下抜粋: 先生の説明のおかげで英語に対する理解が前よりもずっと深まりました。予習も意欲的にできるようになりました。このまま、この挙手制度を続けて欲しいです。) 3. 学生の要望に対する対応 具体的な要望はなく次のようなメッセージを受け取り大変嬉しいです。(以下抜粋: 自分がこんなに頑張れること、意外と積極的にやり遂げられることを初めて実感しました。先生の授業は毎回とても面白かったし勉強になりました。終わっちゃうのさびしいです。3年生でも先生の授業受けたいな~と思いました!!年間お疲れさまでした。ありがとうございました。)
Paragraph Writing b	猪熊 作巳	毎回の小テストは大変だったかもしれませんが、総じて努力の形跡がよく見られました。
アメリカ文学・文化演習 f	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。また、授業への参加もありがとうございました。いただいたコメントをもとにより充実したものとしていきたいと思っております。みなさんの最後の一年が、よりよいものとなりますことを願っております。
アメリカ文学・文化講義 d	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。励みになるコメントをいただき、大変に嬉しく思っております。いただいたコメントを参考に、今後の授業に活かしていきたいと思っております。みなさんの大学生活がますます充実したものとなりますことを願っております。
アメリカ文学史 a	稲垣 伸一	「アメリカの文学作品に対する理解が深まった。」「作品の時代背景を理解できた。」等のコメントを複数いただきました。この授業の内容を次年度以降の授業でも役立ててくだされば幸いです。 小テストの記述問題の採点は正確になるよう次年度工夫したいと思います。
イギリスの文化と社会	志渡岡 理恵	オンデマンド授業で、回答者は133名中36名だった。オンデマンドの場合は告知を複数回するべきかもしれない。説明や資料の分かりやすさは共に4.61で、「パワポが見やすかった」というコメントもあり、その点は良かった。イギリスの文化と社会に関する入門的な科目なので、「楽しく学べた」というコメントが複数寄せられていたのは嬉しい。
イギリス文学・文化演習 d	志渡岡 理恵	演習の授業だったが、履修者が上限の50名だったため、プレゼンテーションは1人1回となった。授業中に授業アンケートを行う時間がなく、後日manabaで回答を呼びかけたものの、回答者は8名だった。来年度は授業中に行おうと思う。そのような状況ではあったが、「英語力が上がった」、「伝わりやすいレポートの書き方の勉強になった」、「好きなことばをたくさん見つけることができました」というコメントが寄せられていたのは良かった。
イギリス文学・文化演習 f	諏訪 友亮	全体的にまずまずの評価でした。5回の課題が多いこともあり今期は予習を課しませんでした。理解を促すためにも簡単な詩の作品を読んできてもらう、テーマについて考えてきてもらうくらいの軽い課題は設けていこうかなと考えています。
イギリス文学・文化講義 b	島 高行	ひとつでも心に残る作品、理論があれば幸いです。それを手がかりに、これからの学びを進めていきましょう。
イギリス文学・文化講義演習 b	島 高行	卒業後も今回取り上げた作品を再読してみましょう。

[2023 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学史 b	土屋 結城	18、9世紀から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を理解し、それとともにイギリスの文化、社会についての理解を深めることを目標とした授業である。アンケートの回答率がそう高くはなかったが「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.70~4.78の評価を得た。概ね、授業の内容や目的についての理解は得られたと思う。今後の課題としては、双方向性の確保と、事前事後学修の充実並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。オンデマンド授業における双方向性に関しては、フィードバックの充実を今後も図るなどして改善したい。また、学生の関心を喚起できるような関連資料も積極的に紹介していく必要があると思う。また、アンケートの回収率を上げるために、十分な余裕を持っての告知を行いたい。
ことばと社会	柳田 亮吾	概して良い評価を頂き嬉しく思っております。この授業は講義形式ではありますが、学んだことをもとに身の回りのことばについて分析・考察し、社会言語学を実践することを目標としています。そのため、課題やレポートも身の回りのことばについて考えてもらうものを課していました。受講生のみさんから課題・レポートがやや多いとの声もありましたので、来年度は分量の調節を検討したいと思います。講義の内容や外国人講師の講演などは概ね肯定的な評価をいただきましたので、来年度はさらに良い内容になるよう引き続き工夫を重ねていきたいと思っております。
英語学演習 b	野村 美由紀	授業外の学習で、manabaによる復習の小テスト課題を毎回課していましたが、それにも毎回よく取り組んでくれました。英文学科の専門科目なので、高校まででは習わないような専門的な内容を含んでいるテキストを使用しましたが、概ね理解できたようで、良かったです。
英語学演習 d	村上 まどか	たった2名からしか回答が得られず、しかも休講・補講が多くて評判を悪くしたようで、困惑しております。ただ「全員、勝手に別の曜日の1限が空いてる」は、村上が勝手に決めつけたのではなく、全員の時間割をmanabaで調べ、木曜1限が誰も履修科目がないと突き止めたのです。当然ながらアルバイトまで考慮はできませんでした。そういう場合はアルバイトと授業を天秤にかけ、アルバイトのほうが重要ならば、授業を(単位修得や成績に無害で)休めばよいという意味でした。それはともかく、皆さん比較的長い英文をよく読みこんできて、読解力と言語学的な知識は身に着いたかと思われま。
英語学概論 b	村上 まどか	オンデマンド科目の回答率は、少な目になるのでしょうか。意見を書いてくれた人は、おおむね肯定的でよかったです。自己反省点としては、一年ぶりで動画の作り方が下手になったようなので、録画をし直すなどして向上させたいと思っています。
英語圏の詩	諏訪 友亮	まずまずの評価でした。教員自身の詩に対する熱意をもっと出すように改善したいです。
英文入門セミナー	稲垣 伸一	履修者の多くがとても積極的に授業に参加してくださり、よい雰囲気です。授業を進めることができたと思います。皆さんがこの授業で学んだことを次年度以降学科専門の授業で活かしていただければ幸いです。
英文入門セミナー	猪熊 作巳	全体的に遅刻欠席が多く、グループワークがうまく準備できなかった学生も多かったようですが、それが逆に、地道な努力や他者との協力、自分の果たすべき責任の重要性を実感する契機になったのではないのでしょうか。
英文入門セミナー	土屋 結城	英文学科の専門教育への学びの入口となる授業だが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.84~4.89の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の改善点としては、グループワークやレポート準備の段階から積極的にコミュニケーションを取り、学生の作業に関わっていくようにする必要のある点と、学生の関心を継続させるため、関連資料などを紹介するなどの工夫を図る必要がある点を挙げられる。
英文入門セミナー	村上 まどか	教員の講義よりも、学生によるプレゼンで知識が付き、ためになったようですね。プレゼンは、前期よりもずっとスムーズで、その点は良かったと思います。文章力は、この一年間で上がったでしょうか。プレゼン力と同時に、文章力も磨いてほしいと思います。
英文入門セミナー	志渡岡 理恵	授業の最後に授業アンケートの告知はしたものの、回答の時間は取らなかったからか、回答者は半分ほどだった。来年度は授業中に回答の時間を取ると思う。1年生の入門の授業だったので、分かりやすさを特に心がけた甲斐があったようで、説明と資料の分かりやすさは共に4.73、聞き取りやすさは4.82だった。「英語の長文を読むコツが分かった」、「論理的思考力が高まった」、「プレゼンする力が育った」などのコメントが寄せられていた。
英文法論	村上 まどか	履修生のほぼ全員から評価を得られてよかった、回答ありがとうございました。基本的なところを深くお話ししたいという意図をくみ取ってくれたコメントもいくつかあり、励みになりました。大病を患って休講・補講が多く、済みませんでした。
言語習得論	猪熊 作巳	普段の取り組み状況に学生間での大きな差がでるのはオンデマンド科目の宿命かもしれませんが、その中でも非常に熱心に取り組んでくれる学生が多く、教員/研究者としても学びの多い経験となりました。ありがとうございました。

[2023 (後期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
時事英語演習	野村 美由紀	授業内容に興味を抱いたからという理由で履修したという学生が多かったことは良かったです。 予習するように、事前発表担当箇所を決めていましたし、毎回、授業外で復習の小テスト課題をmanabaで課していましたのにも拘らず、予習復習時間がゼロの学生が出てしまいましたのは、今後の改善の課題と思いました。
女性と英語圏文学 b	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。コメントを参考に、今後の授業に活かしていきたいと思います。文学文化の理解を通じて、みなさんの未来がより拓かれることを願っております。
卒論セミナー b	諏訪 友亮	まずまずの評価でした。前期のほうが不満に感じている人が多かったためその点はケアしていきたいです。
卒論セミナー b	島 高行	皆さん、よく頑張って卒論に取り組んでくれました。
卒論セミナー b	志渡岡 理恵	卒業論文の締切まで慌ただしかったため、授業アンケートの告知を忘れ、後日manaba のコースニュースで呼びかけた。そのため、21名中6名の回答となった。来年度は早めに行おうと思う。そのような状況ではあったが、「自身の成長を実感できた」項目が4.83だったのは良かった。
卒論セミナー b	村上 まどか	この科目はアンケートに答えにくいのですが、5人のうち2人(も)回答してくれてありがとう。そのうち1人からは高評価、もう1人からはまあまあの評価でしたので、よかったですと思います。
卒論セミナー b	猪熊 作巳	全体的に動き出しが遅く心配しましたが、最終的にはそれぞれができる限りの努力をしてくれたと思います。
卒論セミナー b	柳田 亮吾	卒論執筆はなかなか大変だったかと思いますが、みなさんよく頑張り、無事提出できてよかったです。 ゼミの進め方に大きな問題はなかったようなので、来年度も今年と同じような形で進めたいと思います。
卒論セミナー b	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で5.00~4.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。 今後の課題としては、事前事後学修を充実させるために、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論のに向けてのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。また、アンケートの回答率も低かったため、十分な余裕をもって告知できるようにしたい。
卒論セミナー b	稲垣 伸一	全員が無事卒業論文を提出することができました。いろいろ苦労はあったと思いますが、よく努力して卒論を仕上げてくださいましたと思います。執筆過程で身につけた論理的な文章の書き方や文章力を将来に活かしてください。皆さん、お疲れ様でした。
卒論セミナー b	難波 雅紀	前期の「卒論セミナーa」では、卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり平均10回の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。 卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で60枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストーリーを入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。 そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのかわからなくなってしまい、立ち止まってしまうことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないのでしょうか。 書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段です。言葉には儂く脆い面もありますが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。 以上
卒論セミナー b	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。卒業論文の完成、おめでとうございます。コメントを参考に、今後のゼミの運営に活かしていきたいと思います。みなさんの未来がますます拓かれることを願っております。